



# 林床の**赤い実**を食べるのは誰？



～自動撮影カメラで鳥類の果実消費量を定量化する～

前田大成（石川県立大学 M1）

## 1. 背景・目的

鳥類が植物の果実を採食し、果実に含まれる種子を糞とともに排泄する過程（鳥類による種子散布）は、動物と植物の相互作用の代表例として広く知られています。鳥類による種子散布では、鳥に種子入りの果実を食べてもらうことが種子散布成功への第一歩となるため、植物側は鳥が見つけやすいような赤や黒の目立つ色の果実をつけるとされています。特に日本では、**森林の階層が低くなるほど赤い果実をつける**植物の割合が多くなることで知られています。

しかし林床で結実する植物では、①**生育環境的に直接観察が困難**、②**結実数が少なく訪問回数が限られる**、③**いつ果実が無くなるのか予測しにくい**ことから、そもそもどの動物に果実が食べられるのかわかっていない種も数多くみられます。

そこで本研究では、**赤い果実をつける林床植物**を対象に**自動撮影カメラ**を用いて、**これまで見過ごされてきた鳥類による林床植物の果実消費を解明・定量化する**ことを目的とします。

## 2. 調査地

石川県内の林分構成の異なる2地点

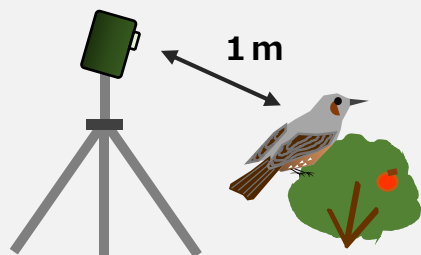
画像左：金沢市（落葉広葉樹林）

画像右：白山市（人工スギ林）



### 3. なぜ自動撮影カメラを使うのか？

#### ◎ 周辺植生が観察の障害になりにくい（①の問題を解消）



- 調査対象から、1 m離れた地点に三脚を立てて自動撮影カメラを設置。
- 著しく撮影を阻害するもの（主にササ）の除去以外は環境を大きく改変しない。

#### ◎ 長期の連続観察が可能（②、③の問題を解消）

使用予定機種：Ltl-Acorn 6210

- 赤外線センサーにより鳥類の訪問時のみ撮影。
- 最大1分の動画を連続撮影可能。
- メモリー容量 or 電池が無くなるまで連続稼働。



### 4. 対象種

これまでに自動撮影カメラを設置した植物：計**6種**（表1）

⇒ **すべての種で鳥類の訪問を確認済み！今後も継続調査！**

表1. 各季節における調査対象種

春～夏	秋～冬
ヒメアオキ	カントウマムシグサ
ニワトコ	カラタチバナ
	ヤブコウジ
	サルトリイバラ



ヒメアオキ果実を丸呑みしたヒヨドリ



マムシグサに訪問したジョウビタキ

### 5. 必要経費など

バードリサーチでご支援いただいた折には、支援金を自動撮影カメラや備品の購入、調査地への交通費として使用させていただきます。